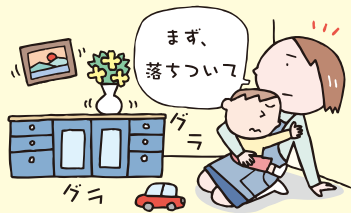


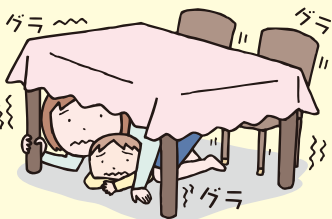
# 地震が起きたら

## 地震だ発生

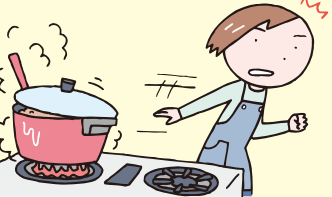
**【落ちついて】**  
何が起ったのが瞬間に判断できません。数秒の揺れでも、とても長く感じます。



**【身体をかくせ】**  
まず、自分の身体を守ること。家具や天井の下敷きにならないよう、丈夫なもの で身体を保護しよう。



**【火に近づくな】**  
都市ガスは震度5相当以上で自動的に遮断されます。無理に火を消そうとせず、揺れがおさまるまで近づかないようにしましょう。



## 発生直後揺れがおさまった

**【ラジオ・テレビをつける】**  
被害情報をできるだけ早く知りましょう。

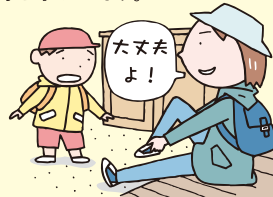


**【火元を確認】**  
ストーブやアイロンなどのスイッチを切りましょう。

**【家族はだいじょうぶか】**  
けが人が出た場合は、自力や近所の助けを得て病院へ向かうことを考えましょう。

**【くつ・スリッパをはく】**  
家の内外は、割れたガラスなどで危険です。絶対に裸足では歩き回らないようにしましょう。

**【余震に注意】**  
余震に備えて外に出る場合は、安全な服装で身を守りましょう。



**【津波から避難】**  
海岸や河川近くや、津波の浸水予測地域にいる人は、できるだけ早く鉄筋コンクリート造の3階以上に避難しましょう。

## しばらくたってみんな無事か!

**【ブロック塀やがれきに近づくな】**  
余震が続きます。危険な場所へは近づかないようにしましょう。



**【車で逃げるな】**  
道路は緊急車両のために空けておきましょう。



**【公衆電話を使う】**  
家庭の電話がかからなくなっても、公衆電話が使える場合があります。

**【自治会や町内会への安否報告】**  
避難する場合も自宅にいる場合も、地域防災リーダーや自治会、町内会などの担当の方に、家族の安否について伝えましょう。

**【出火してしまったら】**  
消火器などですぐに消火しましょう。天井に火が回るようであれば消火器では消せません。早く近所の人に火事が起きていることを伝えましょう。



**【漏電、ガス漏れに注意】**  
電気が復旧し家屋内の断線箇所や使用中だった電気器具に電気が通じたことによる、『通電火災』が発生することがあります。避難するときには必ず電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉め復旧時の2次災害に備えましょう。

## 隣近所の助け合いが最も大事です!!

- 隣近所で声を掛け合い、安否を確認しましょう。(災害時要援護者については19ページ参照)
- けが人がいた場合は応急手当をしましょう。(応急手当の方法は23ページ参照) 重傷者は病院に搬送しましょう。
- 建物や家具などの下敷きになっている人がいれば、ガス漏れや漏電、余震に注意しながら、隣近所の人と力を合わせて助け出しましょう。
- 救助作業にはシャベルやロープ、ボールなどが役に立ちます。家庭の大工道具や小中学校や公園などに大阪市が備えている救助用資器材を活用しましょう。
- 出火してしまったら消火器や可搬式ポンプなどを使い、隣近所の人と力を合わせて消火にあたってください。
- 余震に気をつけながら各家庭にある食料や水を持ち寄り、みんなで分け合いましょう。
- 災害に乗じた悪質な犯罪が起こることがあります。交替で見回りするなど、まちの安全を守りましょう。

## 防災気になる情報 電話が使えないとき

大規模な災害時には、一般電話や携帯電話の通話が制限されます。NTTの災害用伝言ダイヤルや携帯電話の災害伝言板を活用して、家族や友人に連絡しましょう。

**①災害伝言ダイヤル171**  
NTT西日本(一般電話:音声)  
「171」をダイヤルし、ガイダンスにしたがって伝言を登録・再生できます。

**②災害伝言板**  
安否情報を登録すると、家族や友人が携帯電話やパソコンから確認できます。詳しくは、各社のホームページをご覧ください。

◆携帯電話 災害伝言板  
(NTTドコモ) <http://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/>

〈au〉 <http://dengon.ezweb.ne.jp>  
〈ソフトバンクモバイル〉 <http://dengon.softbank.ne.jp>  
〈ウィルコム〉 <http://dengon.willcom-inc.com>

◆パソコン(テキスト、音声、画像)  
(NTT西日本)  
「災害用ブロードバンド伝言板(web171)」  
<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/>

※これらのサービスは、毎月1日、防災週間(8月30日~9月5日)、防災とボランティア週間(1月15日~21日)に体験利用できますので、安否情報を登録してみよう。

## 3日 復旧に向けて

**【水・食料は備蓄でまかなえ】**  
災害からの3日間は、救援物資が整わず商店の販売もできないでしょう。飲料水や非常食を備えておきましょう。トイレの排水や洗いのための水も必要です。



**【正しい情報を手に入れよう】**  
テレビ・ラジオや行政からの情報を確認し、冷静に行動しましょう。

**【家を離れるときは、表示をしよう】**  
避難所に入った時、地域外に一時避難するときは、家の前に行き先や連絡先を表示しておきましょう。

**【壊れた家には入るな】**  
応急危険度の判定が行われます。赤色の印がつけば立ち入り危険。二次災害を防ぐため近寄らないようにしましょう。

